

第29回「食」と「漁」を考える地域シンポジウム

琵琶湖の魚食文化・その魅力をさぐる

「琵琶湖八珍」を生かした地域づくりをめざして

共催：近江八幡市水産協議会・(一財)東京水産振興会・(一社)漁業情報サービスセンター

後援：(予定) 滋賀県・近江八幡市・近江八幡商工会議所・安土町商工会・近江八幡観光物産協会・
滋賀県漁連・滋賀県河川漁連・滋賀県淡水養殖漁協・全国内水面漁連・全漁連

と き： 2015年2月15日(日) 13:00~17:00

と ころ： 休暇村「近江八幡」

(〒523-0801 滋賀県近江八幡市沖島町宮ヶ浜 電話：0748-32-3138)

コーディネーター：二平 章(漁業情報サービスセンター・茨城大学人文学部)

プログラム

主催者挨拶：渥美雅也(東京水産振興会専務理事)

来賓挨拶：近江八幡市長

趣旨説明：コーディネーター

《第1部》シンポ：琵琶湖の魚食文化の魅力

◆特別報告

○淡水魚の魅力配信と地域力創造

中澤さかな(山口県道の駅「萩しーまーと」駅長・総務省「地域力創造アドバイザー」)

○琵琶湖と「鮎寿司」・その歴史と文化

左寄謙祐(老舗「魚治」代表取締役)

◆リレートーク

○琵琶湖の魚と漁業を守りそだてる

森田正行(沖島漁協組合長)

○誕生「琵琶湖八珍」

大沼芳幸(滋賀県文化財保護協会事務局次長)

○「琵琶湖八珍」とおもてなし観光

田辺文隆(休暇村「近江八幡」総支配人)

○魚食文化継承のための取り組み

三枝 仁(滋賀県農政水産部水産課副主幹・水産業普及指導員)

○琵琶湖クルーズと沖島漁民が教える鮎寿司づくり

桂 陽三(琵琶湖汽船株式会社)

(未定)(沖島漁協女性部「湖島婦貴の会」)

◆パネル討論 琵琶湖の魚食文化と漁業の継承をめざして

司会：二平 章

《第2部》「琵琶湖八珍」交流会

美味しい琵琶湖の魚と地酒を囲み楽しく懇談します。

会 場：休暇村「近江八幡」

参加費：5,000円



「萩しーまーと」駅長 中澤さかな

地元愛をすくいあげる 地方再興請負人

全国1800市区町村の半数が2040年までに消滅する——。「日本創成会議」が今春まとめた予測は多くの地方に衝撃を与えた。「どうすれば地元を元気にできるか」。道の駅「萩しーまーと」駅長の中澤さかなは全国を歩き、埋もれた資源と人の力を引き出し続ける。

10月初めの週末、下北半島の付け根にある人口1万8860人の町は季節外れのにぎわいを見せていた。小川原湖(宝湖)に隣接する青森県東北町。キャンプシーズンは過ぎていたが、地元の人や観光客ら8000人が交流センターの駐車場に列を作った。

目当てはこの日振る舞われた「宝湖わんこ丼」だ。シラウオの酒蒸しやワカサギの天ぷらなど湖で取れた食材を、少しずつ白いご飯に載せて食べる。小川原湖漁業協同組合の鶴ヶ崎昭彦がこの町の有志が5年がかりで開発した「ご当地メニュー」で、12月には町内の7飲食店がそろってこの丼を出す。

「さかなさん、年も取りましたけど、やっとここまで来ましたよ」。今年50歳を迎えた鶴ヶ崎は丼の人気にホッとしながら、中澤さかなとの出会いを振り返っていた。高齢化が進み活気を失っていく町に悶々とし、「地元を盛り上げるのを手伝ってほしい」と依頼をしたのが2009年。中澤は鶴ヶ崎にこう返事をした。「協力します。でも鶴さん、あんたが先頭でやらんと」。

中澤は2000年に山口県萩市の道の駅「萩しーまーと」を作った現任の駅

長でありながら、現在は全国16の市町村の手助けにも奔走する。

「大好きな魚のそばで暮らしたい」という思いからリクルートを辞め、

萩に移って15年。埋もれていた萩の水産資源に光を当て、情報収集や広報宣伝といったマーケティングを徹底して、萩しーまーとを年商10億円の道の駅に育て上げた。中澤の評判は次第に多くの自治体に広まり、地方活性化の後押しを求められるようになった。

埋もれた地方の魅力を顕在化

地域を再生する上で、中澤のやり方は独特だ。経営コンサルタントのように課題を抽出・分析して、改善策を提示する、スマートな方法は取らない。強い地元愛を持つキーパーソンを見つけ出し、二人三脚で時間を掛けながら泥臭く突破口を切り開いていく。

「中澤さんは地域を思う人の力を引き出すのが、本当にうまい」。中澤について各地を回る、萩市観光協会の山口泉は言う。中澤は到着するとひたすら町を歩き、夜はいつも、土地の人たちと酒を酌み交わす。食資源のネタを探しているようで実は、秘めたる思いを持つ人材を見つけ出すのが目的だ。

かつて無名だった「金太郎」と呼ぶ萩の地魚を、ブランド魚として流通各社に売り込んだ萩市の職員、中村和也も中澤にすくいあげられた一人だ。大阪に出て土木関係の会社に就職したが「やっぱり地元の役に立ちたい」と、2年目で故郷の萩に戻った。中澤はそんな志を持つ中村を市役所で見つけ、しーまーとでの研修に呼んだ。

一見、遠回りに映る中澤のやり方。実際、鶴ヶ崎が暮らす小川原湖のように成果が出るまでに数年かかることも珍しくない。それでも、今の姿勢を貫くのは「一時期だけ良くなっても、継続しなければ成功じゃない。そのためには地元の人が当事者意識を持って活性化に取り組むのが一番いい」(中澤)と考えるからだ。

中澤には尊敬する民族学者がいる。離島研究の第一人者で、山口県周防大島の農家出身の故・宮本常一だ。

彼が残した著作に、こんな一節がある。「島の人たちが立ち上がらなければ、島の暮らしは良くならない」。衰退を食い止めるために、島民自身が奮起することに、宮本は心を砕いた。

当時の離島の状況は、今の地方にも重なる。強き地元愛をすくいあげて、再生を後押しする。中澤は今日も日本の田舎を歩き続ける。



INNOVATOR II

なかさわ

中澤 さかな

「萩しーまーと」駅長

PROFILE

1957年滋賀県生まれ。関西学院大学卒業後、リクルート入社。2000年に道の駅「萩しーまーと」の初代駅長に就任。2007年から全国の地域活性化を手伝う。

【開催趣旨】

琵琶湖は多くの魚族が生息し、縄文期より漁業も盛んに行われてきた日本最大の淡水湖である。湖岸には伝統的な漁法とともに、鮎寿司をはじめとする独特な魚食文化が生まれ、その漁業と魚食の文化は「琵琶湖文化」の一端を担ってきたものと思われる。しかし近年、他県同様、琵琶湖漁業も漁を営む人々の高齢化が進展し、その生産の持続性が危ぶまれると共に、湖岸から魚食の文化が失われつつあるようにもみえる。そのような中、琵琶湖に伝わる魚食料理を再評価し観光に生かそうとする動きや、鮎寿司の民間製造技術の伝承へ向けた取り組みが広がりをみせるようになってきている。近年、そのような取り組みの一環として、ビワマス・コアユ・ニゴロブナ・ハス・ホンモロコ・イサザ・ビワヨシノボリ・スジエビなど8種の魚料理を「琵琶湖八珍」として選定し、琵琶湖の魚食文化をよりひろく伝えていこうとする動きもでてきた。そこで、本シンポジウムでは、これら琵琶湖の魚食文化の伝承をめぐる動きを、他の淡水漁業地域に紹介しながら、ともに淡水魚の魚食文化の継承と淡水漁業の持続的な生産の大切さについて議論してみたい。

- シンポジウム：無料 先着申込：100名
どなたでも自由に参加いただけます。

- 沖島観光：参加費お1人様1,500円 先着申込：45名
昼食は漁協女性部「湖島婦貴の会」特製「沖島弁当」をご用意。
沖島の観光には、ボランティアガイドが付きます。
当日（2月15日）は、マイクロバスによる送迎（JR近江八幡駅発着）がございます。
車の方は、休暇村駐車場をご利用ください。

《沖島観光スケジュール》

10：00 発	JR 近江八幡駅北口（観光案内所前）に集合、マイクロバスにて休暇村へ
10：30 着	休暇村到着後、ロビーにて沖島観光受付
10：50 発	ロビーを出発して休暇村棧橋へ移動
11：00 発	善通丸にて沖島へ出発
11：15 着	沖島着後、ボランティアガイドによる島内観光
11：45	沖島漁協にて、昼食（漁協女性部特製「沖島弁当」）
12：15 発	沖島を出発し、休暇村へ移動
12：30 着	休暇村着
13：00～	シンポジウム
17：00～	「琵琶湖八珍」試食会
19：00 頃	マイクロバス出発（JR 近江八幡駅へ）

- 「琵琶湖八珍」交流会：参加費お一人様5,000円
 - ①ビワマス（鮠魚） お造り・棒寿司
 - ②コアユ（小香魚） 天ぷら（会場で揚げる）・氷魚の釜揚げ
 - ③ニゴロブナ（真鮎） 鮎寿司
 - ④ハス（鱒） 甘酢漬け
 - ⑤ホンモロコ（本諸子） 南蛮漬け・炭火焼き
 - ⑥イサザ（鮒） 卵とじ
 - ⑦ビワヨシノボリ（鮠） ウロリの巻きずし・ウロリの Pasta
 - ⑧スジエビ（蝦） エビ豆その他：しじみの味噌汁、大中産野菜サラダ
琵琶湖八珍に合う地酒（歓気藹藹：休暇村オリジナル清酒）もお楽しみいただけます。

- 宿泊：各自でご予約願います。

■第 29 回地域シンポ 参加申し込み■

参加希望者名、連絡先等、必要事項をご記入の上、下記宛先まで FAX、もしくはお電話、メールにてお申し込みください。参加申込は、2月6日（金）までをお願いいたします。

※沖島観光（参加費 1,500 円）、シンポジウム、交流会（参加費 5,000 円）への参加について、必ず欄内に○×をお願いします。なお、参加申込は先着順にて受付いたします。

○滋賀県庁水産課（担当：酒井・三枝）宛

FAX : 0 7 7 - 5 2 8 - 4 8 8 5

電話 : 0 7 7 - 5 2 8 - 3 8 7 3

Email : gf00@pref.shiga.lg.jp

氏名		所属先 部署名	送迎 バス	沖島 観光	シンポ ジウム	交流 会
①						
②						
③						
④						
⑤						
代表者 連絡先	(ご住所) 〒					
	(お電話番号)					
	(FAX番号)					
	(メールアドレス) @					

※ご連絡する際に必要となりますので、電話番号と E-mail アドレスを必ずご記入ください。今後、シンポジウムやイベント等のご連絡に使用させていただきます。 ※定員に達した場合、期限よりも早く受付を終了する場合がございます。